

きゆうどう し

休道の詩

いうことをやめよ たきようくしんおおしと

休道他郷多苦辛

どうほうともあり おのずからあいしたしむ

同袍有友自相親

さいひあかつきにいずれば しもゆきのごとし

柴扉暁出霜如雪

きみはせんりゆうをくめ われはたきぎをひろわん

君汲川流我拾薪

こきよう とお はな

故郷を遠く離れて、学問を続けることは辛いこと苦しいことも

おお

くち

や

おな

こころ

も

多いだろうが、それを口にすることは止めよう。同じ志を持った

なかま きようりよく

しぜん ゆうじん

した

仲間と協力していくことで、自然と友人ができ、親しくなることが

あさはや

しば

とびら

ひら

そと

で

しも

いちめん

お

できるのだ。朝早く、柴の扉を開いて外に出ると、霜が一面に降

ゆき

ちようしよく

したく

きみ

りてまるで雪のようだ。さあ、朝食の支度にとりかかろう。君は

かわ い みず く

わたし

たきぎ

ひろ

川に行つて水を汲んできたまえ、私は薪を拾つてこよう。そして、

とも

ちから

あ

べんがく

みち

共に力を合わせて、勉学の道にいそしもう。

